

デンバー訪問紀行【7/2~9】

(一社)高山市文化協会 事務局長 泉孝一

高山を朝早く出発し、セントレアから成田へ移動。成田からのデンバー直行便で10時間、ようやく到着したと思ったら、文化交流に持参した荷物が手荒く検査されて破損するも、空港出口に「高山のみなさんようこそ大歓迎」の横断幕を見つけて気を取り直す。

デンバー訪問の主目的は、チェリークリーク・アートフェスティバルへの参加。岩島玲子と装学院による「浴衣ショー」に始まり、地元参加者をモデルにした「帯締め実演」、日米合同フルート演奏、来場者とともに「飛騨やんざ」を踊り、手本を見ながらの習字、折り紙、からくり実演も織り交ぜ、路上のテント会場は大いに盛り上がる。海拔1600mのジリジリ直射日光も、テントの日陰はカラカラさわやか。



浴衣を着たデンバー市長

地元友好協会のご好意で、昼食や歓迎レセプションに招待され、久々の「ご飯」に力湧く。さらには、高山の漬物を紹介する機会があったり、高山赤十字病院院長が同行されコロラド大学付属病院との連携を深めるなど、多岐にわたる交流となった。

滞在中に独立記念日を迎え、米国民が強く自国を意識する姿が随所に垣間見えた。

成田からの直行便で行ける治安の良い姉妹都市デンバーを、皆さんも訪れてみてはいかがでしょうか。

第21回 高山市近代文学館企画展 瀧井孝作 没後三十年展

【第一部】九月六日(土)・七日(日)

高山市文化協会では、郷土の文化を支えてきた文学者の経歴と功績を紹介し、今後の文学の発展に寄与する目的で、毎年二回の「近代文学館企画展」を開催しています。

今年が高山市名誉市民である瀧井孝作の没後三十年であることから、「瀧井孝作 没後三十年展」と題し、二月の第一部に続き第二部を開催します。

第一部では、生誕から昭和三十年までの歩みを紹介しました。第二部では、昭和三十一年から死去するまでの



◇日時 九月六日(土)〜七日(日) 午前十時〜午後五時(最終日は午後四時まで)

執筆活動や、志賀直哉などの著名な文人との交流を示す記述、書籍をはじめ、日本文学大賞を受賞した「俳人仲間」の直筆原稿などを展示し、その業績を紹介します。

◇会場 高山市図書館「煥章館」一階生涯学習ホール

◇入場無料

芭蕉忌句会

道伝えの日
俳句募集

高山市文化協会では、さまざまな伝統や文化を後世に継承しようと、高山市文化伝承館において「道伝えの日」事業を行っています。

その一環として、次のとおり「芭蕉忌句会」を開催します。句歴を問いません。たくさんの方々のご応募をお待ちしています。

◇出句 二句・兼題句(芭蕉忌)と当季雑詠句の各一句ずつ。
◇応募 作品二句と住所、氏名

電話番号を明記し、はがき、ファックスなどで当協会へ
◇締め切り 十一月一日

◇句会

◇日時 十一月二十九日(土) 午後一時から

◇会場 高山市文化伝承館

(一社)高山市文化協会加盟団体
文化協会後援
催事のお知らせ

◇第六回 中日写真協会飛騨支部写真展

◇日時 九月十二日(金)〜十四日(日) 午前九時〜午後八時(最終日午後四時まで)

◇会場 文化会館二階展示室
「光ミュージアム開館十五周年記念 特別展「日本画名品展」」
◇日時 九月十三日(土)〜十二月九日(火)

◇会場 光ミュージアム

◇料金 入館料が必要

◇大門孝藏 木版画展

◇日時 九月十九日(金)〜二十一日(日) 午前九時〜午後五時(最終日午後四時まで)

◇会場 文化会館二階一五「飛友会カメキ写真展」

◇日時 九月二十六日(金)〜二十八日(日) 午前九時〜午後六時(最終日午後四時まで)

◇会場 文化会館二階展示室

「風目(目)」

夏は過ぎ去った昔の日々を思い出させる。子供の頃の思い出は特に懐かしい。あのゴジラが、今年の夏に再び戻ってきた。片目の博士が、海の中でゴジラと刺し違えて死ぬ時の武器は、オキシジェン・デストロイヤーだった。子供心にこの名前は面白くて、意味の分からないのに覚えていた。

六十年ぶりに改めて見直すと、水素爆弾や原子爆弾に反対するコンセプトを表す新兵器の名前が「酸素殺し」というのは考えたものだ。

子供の時は単なる面白い娯楽映画であって、鋭い文明批評の映画だなんてことは知らなかった。ただ最後に白骨となって海底に転がるゴジラをかわいそうだとは思った。

ゴジラには、原爆や水爆の実験に反対するというだけではなく、人類の「進歩」に対する疑問が根底にあった。いま周囲を見回すと、生活は格段に便利になった。例えばケイタイ。

生活の便利さは、本当に人類を豊かに進歩させたのだろうか。

暑かった夏も終わる。

(ガンモン毛筆)